

組織目標管理シート

問合せ先(電話番号) 0250-25-5451

年度	2019		
組織名(部)	秋葉区役所	組織名(準部・課・機関名)	地域総務課
組織の目的	区の魅力発信や課題解決につなげるため、産学官、地域等との連携によるまちなか活性化や健康づくり、里山の魅力発信等をより主体的に行います。「アキハスプロジェクト」の理念のもとで、秋葉区の特性や魅力をブランド化し、戦略的に発信することにより、地域アイデンティティの醸成を図ります。地域主体による移住・定住促進へ向けた取り組みを支援するとともに、市民活動に取り組む新たな人財を発掘・育成することで、地域・住民主体による魅力あるまちづくりを進めます。地域コミュニティの主体的な取り組みを支援し、地域課題解決に対応した組織や活動の活性化を支援します。 安心安全なまちづくりを推進するため、防災対策に取り組めます。また区役所が率先して省エネルギーによる環境負荷の低減に取り組めます。		

作成日	平成31年4月1日
修正日	
評価日	

No.	部 区 組織目標	組織目標	主な取組(事業)	指標					目標達成状況	評価	
				項目(単位)	2016実績	2017実績	2018実績	2019目標			2019結果
1		産学官及び地域等と連携し、新潟薬科大学が持つ知的資産と学生の感性やパワーを積極的に活かし、まちなか活性化や健康づくり、里山の魅力発信、人財育成等に向けた主体的な取り組みを進めます。	・まちなか活性化実行委員会の開催 ・産学官連携による人財(学生)育成	全体会議の開催数(回)	4	3	3	3		・関係機関等との調整、事業の進行管理	
				学生の地域づくり体験活動実施回数(回)			1	1		・H29-30学生コミュニティフィールドワーク	
2	1	「アキハスプロジェクト」の理念のもとで、秋葉区の特性や魅力をブランド化し、戦略的に発信することにより、地域アイデンティティの醸成を図ります。地域主体による移住・定住促進へ向けた取り組みを支援するとともに、市民活動に取り組む新たな人財を発掘・育成することで、地域・住民主体による魅力あるまちづくりを進めます。	・秋葉区ブランドや魅力の発信 ・秋葉区移住体験ツアー ・移住モデル地区等への支援	支援を行う地区数	-	-	3	3		・地域主体による魅力発信や移住者受入体制整備を支援	
			・新たな人財の発掘育成 ・教育懇談会の開催	取組み実施の件数	-	-	5	5		・まちづくりに係る企画への支援等	
3	2	住民主体の地域活動の深化に向け、コミュニティ協議会と協働で地域課題の解決や地域づくりを推進します。地域と学校の連携による、区の宝を学ぶ子どもの地域学習の場を支援します。	・地域課題の解決策や区政の取り組みをテーマに、区長との意見交換を中心とした地区懇談会の開催	地区懇談会開催回数(回)	11	11	11	11		・H30テーマ「人口減少を踏まえた地域づくり」	
			・Akihaの宝 子ども発見・体感・体験事業	実施学校数(校)	12	12	11	12		・H28「みりよくノート」発行、コミぶらフォーラム開催 ・H29～地域と連携し、「みりよくノート」を活用した子どもの地域学習	
4		区民との協働により、災害に強いまちづくりを進めます。	・自主防災組織結成説明会の開催 ・結成助成、活動助成事業の実施 ・自主防災組織リーダー研修会の実施	自主防災組織結成世帯数	21,994	22,685	23,362	23,472		・平成30年4月1日現在数 秋葉区総世帯数 26,372 秋葉区総自治会数 165 ・目標の自主防災組織結成世帯数は、年度当初総世帯数の89%相当とする。	
5		地球温暖化対策に区役所が率先して取り組み、省エネルギー化による温室効果ガス排出量の削減に努めます。	・官民協働により低炭素エネルギーの調達やエネルギーデータの活用について検討する。 ・照明器具のLEDへの改修や空調の温度管理により電気使用量の削減を図る。	庁舎における電気使用量(kw)の前年度実績との比較	337,364	320,354 (△5.1%)	304,615 (△4.9%)	301,568 (△1.0%)		・平成26年3月から太陽光発電設備を設置し稼働したことで、平成30年度は電気使用量のうち年間約8.6%を太陽光発電で賅っている。	

取り組みについて(今年度重点的に取り組む内容や目標設定の考え方など)	取り組みの結果について(評価内容と評価結果を踏まえた今後の方針など)
産学官及び地域等との連携を深めながら、まちなかの活性化や健康づくり、里山の魅力発信、人財育成等をより主体的に行います。「アキハスプロジェクト」の理念のもとで、秋葉区の特性や魅力をブランド化し、戦略的に発信することにより、地域アイデンティティの醸成を図ります。地域主体による移住・定住促進へ向けた取り組みを支援するとともに、市民活動に取り組む新たな人財を発掘・育成することで、地域・住民主体による魅力あるまちづくりを進めます。 地域コミュニティ協議会と連携・協力し、区や地域の課題等について意見交換し、具体的方策・対応を共有・検討します。地域と連携しながら、区の宝を子どもの地域学習の場として活用し、ふるさとへの愛着や誇りを育みます。子どもたちが健やかに育んでいくための環境づくりを話し合う教育懇談会を開催します。 災害に強いまちづくりを推進するため、自主防災組織の結成に向け、未結成自治会等への結成説明会を開催し、働きかけを行ってきました。現在、結成の意思表示を受けている自治会もあり、結成への機運も高まっています。今後も結成に向けた支援を行い、研修や防災訓練を通じて、防災意識の啓発に努めます。 官民協働により低炭素エネルギーの調達やエネルギーデータを活用し、地域におけるエネルギーの最適化について検討します。平成26年に設置した太陽光発電の活用、照明器具のLED化や庁舎内の節電により、低炭素社会実現に向けた取り組みを区民へ啓発していきます。	

組織目標管理シート

問合せ先(電話番号) 0250-25-5711

年度	2019		
組織名(部)	秋葉区役所	組織名(準部・課・機関名)	健康福祉課
組織の目的	区民一人ひとりが、健康で安心して暮らし続けることができるよう、地域住民や関係機関と連携・協力しながら、地域包括ケアシステムの構築や秋葉区の特徴を活かした福祉や健康づくりなどの各支援施策、事業に取り組むことで、更なるサービスの充実に努め、「秋葉区地域福祉計画・地域福祉活動計画」の基本方針である「人がつながり ともに支え合う やさしいまち」を目指します。		

作成日	平成31年4月1日
修正日	
評価日	

No.	部区 組織目標	組織目標	主な取組(事業)	指標					目標達成状況	評価	
				項目(単位)	2016実績	2017実績	2018実績	2019目標			2019結果
1		地域包括ケアシステムによる生活支援として、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、継続的な支援と仕組みづくりに取り組んでいきます。	・「支え合いのしくみづくり会議(協議体)」を拠点とした地域における支援活動の推進	移動・移送支援モデル実施日数(日)	-	-	-	48			
			・認知症高齢者等にやさしい地域づくりの推進(キャラバンメイト連絡会の支援)	認知症カフェ開催回数(回)	-	-	-	6			
2	3	「秋葉区地域福祉計画・地域福祉活動計画」の理念を広く区民に周知・普及しながら、地域住民や関係機関と連携・協力しながら、健康づくりや福祉課題を解決する取り組みの支援と活動を推進します。	・障がい者への理解を広げ(つなげる)、仲間づくり(つなげる)の推進(つながる支援ファイルの作成・配付、保護者支援の講座の開催)	つながる支援ファイル利用者数(人)	-	-	-	30		・つながる支援ファイルとは、医療・保健・福祉・教育・労働など各機関の支援を1冊のファイルに記録し、経年的に管理し、保護者が所持するもの	
			・身近な子育て支援の充実(子育てサロン・ベビーサロン・ベビマセミナーの開催など)	子育て講座等の開催回数(回)	-	-	-	100			
			・フレイル予防事業(予防教室・講座、各地域での予防普及啓発・支援など)	フレイル予防教室・講座・地域イベントでフレイル予防の実施延参加人数(人)	-	-	-	600			
3		窓口サービスにおける市民満足度のさらなる向上を目指します。	・各係の業務からテーマを設けて課内研修会を実施	研修会実施回数(回)	7	7	7	7		・各係(担当)1回以上の実施	
4		継続的に業務改善を実施し、効率的・効果的な市民サービスを行います。	・各係で業務や窓口等における継続的な業務改善を実施	改善実践報告の件数(件)	27	27	21	21		・各係(担当)3件以上の取組	

取り組みについて(今年度重点的に取り組む内容や目標設定の考え方など)	取り組みの結果について(評価内容と評価結果を踏まえた今後の方針など)
<p>地域包括ケアシステムによる生活支援として、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、「支え合いのしくみづくり会議(協議体)」を拠点とし、支え合いしくみづくり推進員(生活支援コーディネーター)を中心に地域における支援活動を推進します。</p> <p>また、認知症高齢者等にやさしい地域づくりを推進するため、区民や地域の団体、教育機関等とネットワークづくりを行い、区民協働による「認知症高齢者と支える家族にやさしい秋葉区」を目指します。</p> <p>「秋葉区地域福祉計画・地域福祉活動計画」の理念を広く区民に周知・普及しながら、「人がつながり ともに支え合う やさしいまち」を目指し、地域住民や関係機関と連携・協力し、秋葉区の特徴を活かした、高齢者・障がい者・子育て・健康づくりなどの各支援施策、事業に取り組めます。</p> <p>窓口サービスにおける市民満足度のさらなる向上を目指し、職員のスキルアップを目指す研修会や継続的な業務改善を実施し、効率的・効果的な市民サービスを行います。</p>	

組織目標管理シート

問合せ先(電話番号) 0250-25-5331

年度	2019		
組織名(部)	秋葉区役所	組織名(準部・課・機関名)	産業振興課
組織の目的	区の特徴である「鉄道・花・里山・石油」のキーワードと関連する施設を活用し、交流人口の拡大を図ります。また、関係団体と連携して地域経済の活性化と賑わいのあるまちづくりを進めるとともに、地域の特性を踏まえた農業政策を推進することで、地域農業の持続的な発展を目指します。		

作成日	平成31年4月1日
修正日	
評価日	

No.	区長 マニフェスト	組織目標	主な取組(事業)	指標						目標達成状況	評価
				項目(単位)	2016実績	2017実績	2018実績	2019目標	2019結果		
1		里山の魅力発信や里山と結びつけたまちなかの活性化、次世代につながる環境教育を行います。	・里山未来創造事業	Akihaマウンテンプレーパークの参加者数(子供参加数)	1,020	1,843	1,802	1,800		過年実績に基づき、毎月1回あたり平均43人(H31年度は計42回を予定)	
2	4	地域資源を活かし、秋葉区の交流人口の拡大を図ります。	・小須戸温泉健康センター管理運営	小須戸温泉健康センター入館者数(人)	108,068	113,997	126,917	105,000		H31年度においては、料金改定(増)及び大広間のリニューアル工事により実績値の8%減(H29)として算出	
			・石油の世界館管理運営	石油の世界館来館者数(人)	10,965	9,957	10,855	11,000		里山ビジターセンターとの連携等でH29年度の10%増	
			・Akihaルール浪漫<ren-ketsu> ・磐越西線SL定期運行推進協議会 ・阿賀野川ライン観光協会	磐越西線沿線自治体及びJRとの連携協力する新規事業数	—	—	—	3		・SLばんえつ物語号成人式 ・2019新潟DC期間中に相互観光事業 ・プレごっつおまつり	
			・Akiha花一番PR事業 ・園芸推進費(既存事業)	秋葉区内花き関連施設入場者数(県立植物園・花夢里・新津FL・うららこすど)	1,448,458	1,398,295	1,498,380	1,543,331		平成30年度を基準に秋葉区観光戦略プラン花部門の目標値と併せて、3年後10%増加(毎年3%増)	
3		起業家の養成講座やシェアオフィス・コワーキングスペース(若者の居場所)の開設を通じて秋葉区の将来を担う社会起業家を育てます。	・社会起業家プラットフォーム運営 & 地域人材発掘・養成事業	社会起業家育成講座(参加人数)	—	—	—	20		商店街で開店する人だけを求めるのではなく、商店街に関係する人を発掘して育てていきます。シェアオフィスは商店街の空き店舗での開設を目指します。講座は2回開催を予定	
4		「もち麦」を核に、農業・福祉・健康づくりの各分野で様々な取組を展開します。	・Akihaもち麦プロジェクト推進事業	区内もち麦作付面積(ha)	—	4	9	10		翌年収穫分のもち麦播種面積	
				区内産もち麦の取り扱い店舗数	—	—	8	10		もち麦を取り扱う健康レストラン等の店舗数	

取組みについて(今年度重点的に取り組む内容や目標設定の考え方など)	取組みの結果について(評価内容と評価結果を踏まえた今後の方針など)
<p>商店街の活性化に向けては秋葉区の将来を担う社会起業家を育てることで新たな事業、起業に意欲的な市民が街中に集まる機会をつくり、さらに活動の場を提供することで持続的なまちづくりを担う人材の創出に取り組めます。</p> <p>「秋葉丘陵」として親しまれている緑豊かな里山の魅力ある資源を活かすべく、「里山未来の種プロジェクト」において策定した行動計画に基づいた取組みを実施していきます。また、里山施設の運営については、里山ビジターセンターと共に石油の世界館の利用者拡大に向け、指定管理者や他施設・関係団体等と連携しながら積極的な広報発信や魅力ある自主事業の実施に努めます。さらに里山エリア内に位置する小須戸温泉健康センターを里山の新たな魅力として活用する事業を実施します。</p> <p>秋葉区の地域資源として産業の大きな柱となっている花き生産、鉄道のまちとして栄えた歴史を伝える鉄道資料館や車両製作所などの鉄道関連施設、全国一の石油採掘量を誇った当時の施設が残る石油文化遺産、ほぼ全ての品種が揃う日本最大のポケ公園を併設する小須戸花とみどりのシンボルゾーンなど、これら区の大きな魅力を十分に活用するほか、磐越西線沿線自治体との連携によるイベントの開催により、観光・交流人口の拡大を図ります。</p> <p>農業関連では、米主体の生産から新たな土地利用型作物への転換を進めるため、機能性に注目が集まる「もち麦」を核に、農業・福祉・健康づくりの各分野で様々な取組を連携しながら展開します。</p>	